



Established in 1992

JCPF 会報

Japanese Cleft Palate Foundation
 特定非営利活動法人 日本口唇口蓋裂協会

発行 特定非営利活動法人 日本口唇口蓋裂協会事務局
 〒464-8651 名古屋市千種区末盛通2-11
 愛知学院大学歯学部
 TEL: 052(757)4312 FAX: 052(757)4465
 振込口座: 郵便局 00850-1-109941
 三菱東京UFJ銀行 丸王山支店 普通 1045666
<http://jcpf.agu.jp> E-mail: jcpf@jcpf.or.jp

Vol. 23, No. 1
 (平成26年6月20日発行)

73

定価 400円

沖縄県支部開設

琉球大学医学部は、1999年より当協会の正会員でもあります砂川 元名誉教授が中心となって協会とともにラオス人民民主共和国への医療援助活動を行ってまいりました。これまでの協力関係のもと、ラオス国への援助とならんで、沖縄県の口唇口蓋裂の患者様への更なるサポートを共同でおこなっていきと琉球大学医学部附属病院口唇口蓋裂センター内に日本口唇口蓋裂協会沖縄県支部を開設することとなりました。平成26年3月16日(日)沖縄県男女共同参画センターにて開設式典を行い、引き続き夏目長門常務理事による講演会を行いました。式典では、砂川 元名誉教授、岩政輝男琉球大学前学長らより挨拶を頂戴し、沖縄県支部の代表新崎 章琉球大学医学部教授がお礼を述べました。講演会では100名近い参加者に「口唇口蓋裂の治療の現状と展望」について講演し、講演後は琉球大学の先生方を中心に無料医療相談会を行いました。日本口唇口蓋裂協会では、9月に第2回講演会を同じ沖縄県男女共同参画センターで開催を予定しております。次回には講演会とともに口唇口蓋裂を考える会の発足を企画しており、ご希望の方は是非ご参加いただきますようお願いいたします。

第2回沖縄県公開講演会(予定)

日時: 平成26年9月28日(日) 10:00～

場所: 沖縄県男女共同参画センター

内容: 1. 沖縄県口唇口蓋裂を考える会設立式典
 2. 講演会

「口唇口蓋裂の治療を通じて思うこと

—育児や治療をする上で知っておいていただきたいこと—

日本口唇口蓋裂協会 常務理事 夏目 長門

「琉球大学医学部附属病院口唇口蓋裂センターにおける治療」

琉球大学医学部附属病院口唇口蓋裂センター 西原 一秀

3. DVD上映

・口唇口蓋裂遺伝カウンセリング

・口唇口蓋裂を理解するための映画 —和子旅立ち—

4. 無料医療相談会



講演会の様子



無料相談会



式典



代表の琉球大学 新崎 章 教授



総会・活動報告会開催

平成26年度特定非営利活動法人日本口唇口蓋裂協会 活動報告会が4月25日(金)に中部電力東桜会館で開催されました。今回の報告会には、当協会の医療援助活動にも大変関わりが深く、同国における協会の活動に行政面より多大なるご支援を賜っておりますベトナム社会主義共和国チュオン・ミン・ホア前国家副主席ならびにベトナム婦人協会幹部の方々が来名しご出席くださり、川口文夫理事長よりホア閣下へ感謝状を贈呈いたしました。また、滞在期間中は、稲葉正吉蒲郡市長との面談や中部国際空港内の在名古屋ベトナム社会主義共和国名誉領事館を訪見し、平野幸久名誉領事との面談等、愛知県との多様な分野でのさらなる友好関係のためにご尽力をされ、27日(日)に帰国されました。



川口理事長あいさつ



チュオン・ミン・ホア前国家副主席へ感謝状贈呈

平成25年度 事業報告

国内事業

- (ア) 交流啓発事業
 - ・学生やキリスト教関係者に協会の活動を紹介
- (イ) 口唇口蓋裂児一発生子防や治療法理解の為の事業
 - ・ホームページや講演会による情報提供
 - ・富岡講堂での講演会
- (ウ) 親の会への援助
 - ・「口唇口蓋裂を考える会」の視聴会で患者家族の抱える悩みなどにアドバイスを行う
 - ・琉球大学医学部附属病院内に当協会沖縄県支部を開設し、第1回沖縄県口唇口蓋裂講演会にて、夏目長門常務理事が講演した。
- (エ) 悩みの相談事業
 - ・今年度は15件の相談があった。
 - ・医療・手術・治療に関する悩み 5件
 - ・病院紹介 4件
 - ・遺伝・結婚に関する悩み 4件
 - ・育児・授乳・離乳食に関する悩み 2件
- (オ) 会報発行事業
 - ・年4回発行し、活動の情報提供をした。
- (カ) 書籍、ビデオによる啓発事業
 - ・口唇口蓋裂理解のため、本やDVDの提供を実施した。
- (キ) 言語障害者の遠隔言語訓練事業
 - ・本国在住の患者家族へ言語発達指導、訓練を行った。
 - ・モンゴル国内ならびに日本との言語指導を行った。
- (ク) 認定NPO法人としての事業

海外事業

- (ア) 医療診察事業
 - ①モンゴル国
 - ②ラオス人民民主共和国
 - ③ミャンマー連邦国
 - ④ベトナム社会主義共和国
 - ⑤インドネシア共和国
 - ⑥エチオピア連邦民主共和国
- ・専門家を派遣し、無償診療、無償手術等を行った。

- (イ) 人材育成事業
 - ・モンゴル人3名、ベトナム人4名の受け入れ
- (ウ) 医療物資支援事業
 - ・各診療隊(モンゴル、ベトナム、ラオス、ミャンマー、インドネシア、エチオピア等)が、必要な機材・薬剤を日本から持参し、現地医療施設へ寄贈した。
- (エ) 海外のNGOとの情報交流
 - ・第8回国際口唇口蓋裂協会総会(CLEFT2012)が開催され、運営に協力した。
- (オ) 自立支援事業
 - ・ベトナム国への自立資金貸し付け
- (カ) 英文会報の発行
- (キ) 国際口唇口蓋裂協会事務局
 - ・CLEFT2013に関する情報提供
 - ・CLEFT2014の業務補助

環境保全事業

- (ア) 貴金属リサイクル事業
 - ・全国11の歯科医師会後援事業として、歯科医院や大学病院、一般の方々から頂いた金歯、銀歯、撤去冠などの貴金属をリサイクルし、活動資金に利用
 - ・医療協力大学による本事業の周知と協力依頼
- (イ) 携帯電話リサイクル事業

会員の増加のための事業

- ・HPの定期的更新、新聞、雑誌等への活動掲載により協会活動をPR
- ・協力企業ココカラグループ(2社)に加え、キンピバレッジ、アサヒ飲料、大塚食品、ダイドードリンコ、サントリービバレッジグループ(2社)と協力メーカー全6社(8社)と協賛し、「災害時の飲料水確保システム」募金機能付自動販売機の設置に向けた活動を行った。
- ・ALSOKと協賛し、セキュリティシステム契約時の一部寄附を協力、案内を送付し個人賛助会員より一件成約となった。

その他

- ・ベトナムベンチユウ書記長一行が当協会の平成25年度活動報告会に出席した。
- ・夏日常務理事が、ベトナム首相に謁見をし(12月13日)、また国賓として来日された国家主席の懇親会に招かれ出席した(3月17日)。
- ・在名古屋モンゴル国名誉領事指名式典に外務大臣が出席し、名誉領事は当協会相談役の安藤琢弥氏(医療法人衛生会理事長)が就任した。
- ・モンゴル国母子病院より院長一行が来名し、先大異常に関する疫学研究を共同して行うための協定を調印した。
- ・ラオス名誉領事館共同事業として、愛知学院大学でのラオス大使による講演。
- ・エチオピア名誉領事館主催、当協会共催により、エチオピア首相ならびに大臣らと愛知県を代表する企業等との朝食会兼会議を開催した。
- ・エチオピア大使館主催による中部地区で初の投資ビジネスセミナーを開催し、当協会は名誉領事館事務局として準備等のサポートを行った。
- ・バングラデシュ大使が来名し、夏日常務理事と名誉領事館開設に関する打ち合わせを行った。
- ・ミャンマー大使と面談をし、これまでの協会の活動を報告、名古屋への名誉領事館開設に向けて意見交換を行った。
- ・五嶋みどり氏がミュージックシェアリングの活動の一環として、春日台養護学校でチャリティコンサートを行い、協会より夏日常務理事が参加し学生らと交流を図った。
- ・第44回キリスト教社会公益賞を受賞し、授賞式には梅村理事が出席し、キリスト教クラブ会長より賞状とご寄附を受領した。
- ・当協会のベトナム国への社会貢献活動に対し、豊田章一郎トヨタ自動車株式会社名誉会長、豊田章男同代表取締役社長、中野重哉学校法人愛知学院理事長に大使代理と夏日常務理事より感謝状を贈呈した。
- ・第28回入れ歯供養祭が10月8日(入れ歯の日)に梵王山の日泰寺(名古屋千種区)で行われ、協会スタッフが参加し活動を示したパネルの展示等を行った。

平成26年度 事業計画

国内事業

- (ア) 交流啓発事業
- (イ) 口唇口蓋裂児ケア一発生子防の為の事業
- (ウ) 親の会への援助
- (エ) 悩みの相談室
- (オ) 会報の発行
- (カ) 書籍・DVDによる啓発事業
- (キ) 言語障害者の遠隔言語訓練事業
- (ク) 認定NPO法人としての業務

海外事業

- (ア) 医療診察事業
 - ①ベトナム社会主義共和国
 - ②ラオス人民民主共和国

- (イ) インドネシア共和国
- ①ミャンマー連邦共和国
- ②モンゴル国
- ③バングラデシュ人民共和国
- ④チュニジア共和国
- ⑤エチオピア連邦民主共和国
- ⑥ケニア共和国
- ⑦カンボジア 王国
- (イ) 人材育成事業
- (ウ) 医療物資支援
- (エ) 海外のNGOとの情報交流
- (オ) 自立支援事業
- (カ) 支部活動
- (キ) 口唇口蓋裂等の治療可能な胎児の命を守るための事業

- (ク) 英文会報の発行・HPへの掲載
- (ク) 国際口唇口蓋裂協会事務局

環境保全事業

- (ア) 貴金属リサイクル事業
- (イ) 携帯電話リサイクル事業

会員・収入の増加のための事業

- 事業実施のための寄附・啓発活動
- (ア) 寄附型自動販売機の設置事業
- (イ) 募金箱の設置活動を行う
- (ウ) 手術費国の募金事業

平成25年度決算・平成26年度予算

科 目	平成25年度決算額	平成26年度予算額	科 目	平成25年度決算額	平成26年度予算額
I. 収入の部			II. 支出の部		
会費収入	9,874,790	9,850,000	事業費(1)人件費	5,775,700	4,530,000
財団等補助金	7,974,898	993,000	(2)その他経費	42,905,527	13,985,000
寄付金収入	44,262,492	25,600,000	管理費(1)人件費	14,888,565	11,550,000
雑収入	94,405	103,000	(2)その他経費	6,829,900	6,210,931
当期収入合計	62,206,585	36,546,000	当期支出合計(B)	70,399,692	36,275,931
前期繰越正味財産額	27,104,085	18,910,978			
収入合計(A)	89,310,670	55,456,978	次期繰越収支差額(A)-(B)	18,910,978	19,181,047

■ベトナム社会主義共和国チュオン・タン・サン国家主席に謁見

平成26年3月17日(月)に、国賓として訪日中のベトナム社会主義共和国 チュオン・タン・サン(H.E. Mr. Truong Tan Sang)国家主席の懇親会が東京・赤坂の迎賓館で行われ、20年以上にわたるベトナムへの医療協力等の交流により招致があり、当協会の夏目長門常務理事が出席をしました。直々に挨拶をした際は、当協会の活動やベトナムでの長年にわたる国際協力を記録したプロモーションビデオ等を贈呈し、当協会のベトナムの活動について改めて報告をしました。



サン国家主席



サン国家主席に協会の活動ビデオ等を贈呈する夏日常務理事

■モンゴル大統領との面談

平成26年4月14日(月)にモンゴル国 特命全権大使 ソドブジャムツ・フレルバータル閣下のご配慮で都内ホテルにてモンゴル国ツァヒアギーン・エルベグドルジ大統領に日本口唇口蓋裂協会の活動報告を行う機会を与えられました。

大統領は日本口唇口蓋裂協会の活動を高く評価され、今後の我々の事業においてモンゴル国大統領後援事業として全面的にサポートしますとのお言葉を頂戴いたしました。

モンゴル国大統領から日本国の口腔外科分野の活動の意義が認められる事はかつてない素晴らしい事と感銘を致しております。

これも20年間に亘り、毎年40名以上の医師、歯科医師、衛生士が医療援助の為に何回も現地に赴き活動を共にしてきた事が今回の功績に結びついたのだと考え、日本国とモンゴル国との友好の象徴として国民に広く周知していく事が大切だと痛感しております。

今後とも微力ながら日本口唇口蓋裂協会は両国の文化交流のみならず医療交流を通じての友好の為にこれまで以上に発展すべく、全身全霊を尽くし、精励いたす所存でございますので、皆様のご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。



夏目 常務理事 安藤 相談役 エルベグドルジ 大統領

■バングラデシュ・ビジネスセミナー in名古屋 開催

平成26年5月16日(金)に、駐日バングラデシュ人民共和国大使館主催、名古屋商工会議所共催、中部経済連合会ならびに日本口唇口蓋裂協会後援、三菱航空機株式会社特別協力による「バングラデシュ・ビジネスセミナー in名古屋」が、名古屋商工会議所内会議室にて行われました。

セミナーには企業規模問わず、同国に関心のある企業、約30社約40名が参加し、大使閣下がバングラデシュ国の歴史や日本との交流関係、経済等についての講演をされました。また、各企業からの問い合わせや相談に大使閣下がアドバイスをされる等、非常に有意義な会議となりました。



海外医療援助

ニンビン

平成26年2月27日～3月9日
(第69次ベトナム国医療援助事業活動)

2014年2月27日から3月9日にベトナムニンビン省で口唇口蓋裂患者に対する治療援助活動を行いました。ニンビン省における活動はベトナム医療省からの要請を受けて1998年度から継続して行われているもので、今回で14回目の活動となりました。例年通り今回もニンビン総合病院(ニンビン省の拠点病院で700床を有します)の口腔外科・麻酔科の協力のもとに口唇口蓋裂患者の治療を行いました。

今回の活動では約70名の患者が来院され(そのうち新患は34名)、30名の患者に全身麻酔下で手術を施行しました。その結果、これまでに約450名の患者を登録し、約400例の手術を施行したことになります。無償手術のほかにニンビン総合病院幹部と今後の協力関係の継続と技術指導の方向性についてのミーティングを行いました。特に今回のチームには途中参加ではありますが、九州大学矯正科の高橋医師をはじめとする矯正専門医に参加していただくことができ、ニンビン省における今後の課題として残されている口唇口蓋裂患者の顎顔面骨格や咬合管理の方向性や今後の課題についての打ち合わせも行うことができました。今後のニンビン省における口唇口蓋裂一貫治療の未来を模索していくうえで重要な機会になったと思います。

今回の活動中にうれしいこともありました。これまでのニンビン省における活動に対して、日本口唇口蓋裂協会および、森医師(九州大学口腔外科)、丹羽医師(大阪大学歯科麻酔科)、南医師(愛知学院大学口唇口蓋裂センター)の3名がニンビン省人民委員会及びニンビン省保険局より表彰されました。これをうけて今後のわれわれとニンビン省の友好関係の継続を約束しました。

さらに今回の訪問期間中に、ベトナム国営放送(VTV 4)のクルーがわれわれの活動取材するためにニンビン総合病院にいられ、ベトナムの全国ニュースで放送していただきました(残念ながら内容はわかりませんでした)。しかしこの取材内容は3月16日にVTV 4の日本語放送プログラム、JAPANLINKという30分番組の中で約7分間の枠で取り上げていただき、全世界に発信されました。この内容はベトナム国営放送(VTV)のホームページからアーカイブとして見ることが可能ですので、機会があれば視聴ください。



表彰

参加者:

【口腔外科医】

菅原 利夫 愛知学院大学
口腔先天異常学研究室
南 克浩 愛知学院大学
口腔先天異常学研究室
松川 良平 愛知学院大学
口腔先天異常学研究室
森 明弘 愛知学院大学
口腔先天異常学研究室
森 悦秀 九州大学大学院口腔顎顔面外科学
中野 旬之 九州大学大学院口腔顎顔面外科学
山田 栄央 札幌医大 歯科口腔外科

Kim Jin Wook Kyunpook National University
【麻酔医】

丹羽 均 大阪大学大学院歯科麻酔学
前川 博治 大阪大学大学院歯科麻酔学
福川 元明 国立病院機構高崎医療センター

【矯正歯科医】

高橋 一郎 九州大学大学院歯科矯正学
春山 直人 九州大学大学院歯科矯正学
井上 裕子 イノウエ矯正歯科
井上小百合 イノウエ矯正歯科

ベトナム社会主義共和国

平成25年12月20日～12月28日

(第68次ベトナム国医療援助事業活動)

日本よりベトナム社会主義共和国ベンチエ省グエンディンチュー病院での口唇口蓋裂児の診察及び無料手術を目的とし、医療援助診療隊を派遣しました。診察日には、96名の子供たちが診察に訪れました。12/21は、昨年手術を受けたが遠方に居住しているため病院に来院できない患児の訪問診療を2組行い、現地の障害児学園を訪問し、たくさんの児童とふれあうことができました。12/22には、日越国交樹立40周年記念式典があり日本診療隊の先生方、看護師の方がたくさん受賞されました。手術日は12月23日～27日の5日間であり、48例の全身麻酔による口唇裂や口蓋裂の手術を施行しました。今回のミッションも歯科衛生士の参加により術前の口腔ケアにも力を入れて行うことができ、口腔ケアの必要性が現地の人々に伝わったのではないかと思います。今回行った48例の手術は全て問題なく終了し、我々が帰国した後、手術を受けた方は全員問題なく退院したと連絡がありました。

長年続けられているこのミッションが今回も無事安全に遂行できたことを報告します。



●日本口唇口蓋裂協会派遣者: ベンチエ隊 (順不同、敬称略)

【科学研究費による学術調査参加者】

夏目 長門 愛知学院大学
吉増 秀實 東京医科歯科大学
新美 照幸 愛知学院大学

【口腔外科医】

香月 武 佐賀大学
柳澤 繁孝 社会医療法人敬和会
大分岡病院

富永 和宏 九州歯科大学
河野 憲司 大分大学

三古谷 忠 北海道大学
西條 英人 東京大学

井村 英人 愛知学院大学
大野 磨弥 愛知学院大学
山内 楓子 愛知学院大学

吉岡 俊一 大分大学
土生 学 九州歯科大学
吉田 将亜 旭川赤十字病院

藤井 誠子 九州歯科大学
赤坂 真琴 北海道大学

【麻酔医】

松本 恵 旭川医科大学
山本 俊介 大分大学

福井 雅上 医療法人春回会
井上病院

左合 徹平

木村 直暁

酒井 裕一

太期ふたば

【小児科医】

磯村 直子

【看護師】

水野 敏子

菅野 香

月下 高美

井上あずさ

佐藤 和美

外山 喬士

池田 愛美

立花香織理

【歯科衛生士】

池上由美子

【学生】

佐藤昂太郎

栃原かおり

上原 朋子

伊東 孝晃

福山 秀青

九州歯科大学

桶狭間病院藤田こころケアセンター

大同病院

東京女子医科大学

佐賀県立病院好生館

愛知学院大学歯学部附属病院

北海道歯科大学

愛知学院大学歯学部附属病院

愛知学院大学歯学部附属病院

大分大学

旭川医科大学

大分岡病院

九州歯科大学

がん・感染症センター

都立駒込病院

大分大学

大分大学

大分大学

旭川医科大学

旭川医科大学

ラオス人民民主共和国

平成25年12月21日～12月24日

(第22次ラオス人民民主共和国医療援助事業活動)

砂川 元琉球大学名誉教授が、口腔外科医1名と他2名の4名でラオス国を訪問、ピエンチャンのセタティラート病院で12名の診察、6名の無料手術を行った。日本口唇口蓋裂協会は補助的業務をサポートした。

ラオス人民民主共和国

平成26年2月17日～2月22日

(19日からは、カンボジア王国訪問)

(第23次ラオス人民民主共和国医療援助事業活動)

夏目長門常務理事他2名で、ラオス国では、日本国大使館や健康科学大学、セタティラート病院等を訪問し、これまでの活動についての報告や、今後の医療協力、大学間の交流活動について面談をおこなった。カンボジア国では、アンコールワット小児病院を訪問し、同国における新しいプロジェクトについての可能性について面談をおこなった。

参加者:

夏目 長門 日本口唇口蓋裂協会 常務理事
田中 貴信 愛知学院大学歯学部 歯学部長
中村 好徳 愛知学院大学歯学部 准教授

診療隊参加募集!!

期 間: 2014年12月下旬
※詳細決定後、当会報でお知らせします。

場 所: ベトナム社会主義共和国
ベンチエ省

応募締切: 2014年11月末日

費 用: 25万円

詳しい情報をお知りになりたい方は、
E-mail: Info7@jcpf.or.jp
(担当: 吉田)

訃 報

顧問 河合 幹先生 ご逝去されました

日本口唇口蓋裂協会設立準備よりご指導ご鞭撻を賜り、設立後は常任理事として、平成18年からは顧問として協会の活動にご尽力頂いておりましたが、平成26年6月1日にご逝去されました。享年86歳。

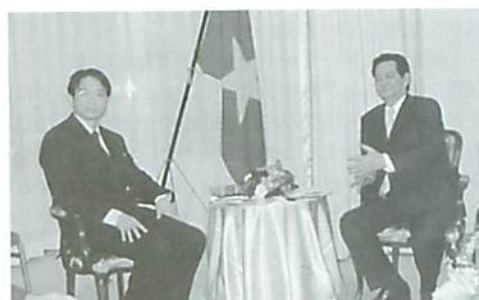
愛知学院大学歯学部口腔外科学の教授として、口唇口蓋裂センターを開設し、常に口唇口蓋裂治療について考え、患者に寄り添う医療を目指し、(社)日本口腔外科学理事長や国際口腔外科学会の学術大会長などを歴任されました。

ここに、河合 幹先生のご尽力にあらためて感謝申し上げますとともに、協会関係者、スタッフ一同衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。

最近の国内活動

■ベトナム社会主義共和国グエン タン ズン首相に謁見

平成25年12月13日(金)に来日中のベトナム社会主義共和国グエン タン ズン首相に帝国ホテルにて謁見いたしました。夏目長門常務理事と協会の活動に賛同し、支援をいただいている高井雅司 株式会社共同通信社常務取締役、畑中 裕 M&C コンサルティング株式会社代表取締役社長の3名で、11月にベトナム ハノイで開催した日越40周年記念事業の報告や、ハノイ宣言への協力要請をお願いいたしました。



ズン首相と夏日常務理事

■エチオピア連邦民主共和国投資ビジネスセミナー兼文化交流会開催

エチオピアとの医療協力の成果で開設された当協会相談役 松本定道 在名古屋エチオピア連邦民主共和国名誉領事(中京総合警備保障株式会社 代表取締役会長)が中心となり、平成25年12月6日(金)中部国際空港内のセントレアホールにて、駐日エチオピア連邦民主共和国大使館主催、在名古屋エチオピア連邦民主共和国名誉領事館(事務局:日本口唇口蓋裂協会)後援のもと、この中部地区では初となる投資ビジネスセミナーを開催いたしました。また同時に、本国よりエチオピア国立民族舞踊団が来日し、同ホールならびにオアシス21(名古屋市内)で二回にわたり公演を行い、終日にわたりエチオピアのイベントを開催いたしました。

事前視察の際は、花木卸売市場や中部地区を代表するコーヒー産業の株式会社コメダ、松屋コーヒーを訪問し、エチオピアとの経済交流の可能性について意見交換をされました。

投資ビジネスセミナーは、百二十社を越える企業に参加頂き盛会裏にて終了致しました。このイベントの成功を機に、エチオピア国へのさらなる経済交流の発展や文化交流の促進を目指していきます。

また、河村たかし名古屋市長や川上博中部国際空港株式会社代表取締役社長はマルコス大使閣下と意見交流等も活発に行われました。



マルコス エチオピア大使



Q & A コーナー

質問：口唇口蓋裂の子どもの顎発育の特徴について教えてください

お答え：琉球大学大学院医学研究科 顎顔面口腔機能再建学講座
西原 一秀 先生・片岡 恵一 先生・新崎 章 先生

子どもの上顎骨(上あごの骨)や下顎骨(下あごの骨)などを含む顔面頭蓋骨の成長発育は、出生時に40～50%、10歳児に65%程度が完成していると言われています。顔面頭蓋骨の成長発育の増加度は、出生から1歳頃までが最も旺盛な時期で、6歳頃までに徐々に増加し、10歳までに安定しますが、上顎骨と下顎骨では、成長発育の時期がやや異なります。一般的に、上顎骨の成長のピークは小学校低学年の時期ですが、下顎骨は小学校高学年から中学校にピークが始まり、思春期が終わるくらいまでと報告されています¹⁾。

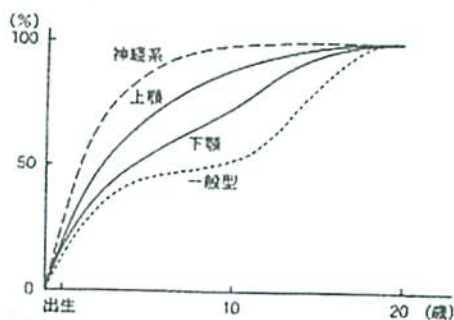
口唇口蓋裂の子どもさんの顎発育は、口唇形成術、口蓋形成術などの手術や受け継がれた遺伝的な要因に伴ってさまざまな経過をたどります。口唇口蓋裂は、口蓋(上あご)部分の破裂の有無によって口唇(顎)裂、唇顎口蓋裂、口蓋裂に分けられますが、特に、口蓋裂を有する唇顎口蓋裂、口蓋裂の子どもさんは乳児期に口蓋裂の手術を行うために、上顎骨の成長発育に影響を受けやすく、上顎骨の劣成長や上顎歯列弓の狭窄を認めることが多いようです。現在、口唇口蓋裂治療専門施設では、上顎骨の成長発育への影響を最小限にするように工夫した口蓋形成手術を行い、幼児期から矯正歯科医によって顎発育の成長を観察しています。

上顎骨の成長発育が不十分な子どもさんは、上下顎の歯の噛み合わせが悪くなり、上顎の歯が下顎の歯より引っ込んでしまう反対咬合の状態を示すことがあります。そこで、矯正治療では、上顎骨の成長の大きな時期に上顎前方牽引装置を使用して上顎骨の前方への成長発育を促したり、下顎骨の成長が旺盛な子どもさんでは下顎骨の成長を抑えるチンキャップ装置を使用したりして、幼稚園の時期から顎発育の矯正治療を開始することもあります。最終的に顎発育終了時に上顎の劣成長により反対咬合を呈した場合には、手術的に上顎骨の前方移動や下顎骨の後方移動によって咬合関係を良好にする場合もあります。

子どもさんごとに顎発育の速度や歯の生え変わり時期が異なりますので、顎発育の矯正治療時期や治療法などは、主治医の先生にご相談ください。

参考文献

- 1) Jain, R., B. and Krogman, W.M: Craniofacial growth in clefting from one month to ten years as studies by P-A headfilms. Cleft Palate J., 20: 314-326. 1983
- 2) Sillman, J. H.: Dimensional changes of the dental arches: Longitudinal study from birth to 25 years. Am. J. Orthod., 50: 824-842. 1964.
- 3) 業師寺 俊: 口蓋裂手術法と上顎骨歯槽部の成長発育に関する臨床的研究. 口蓋裂誌11巻 111-141. 1986.



質問：口唇裂の初回手術の時期について教えてください

お答え：琉球大学医学部附属病院口唇口蓋裂センター 後藤 尊広 先生・新崎 章 先生

口唇裂には様々な裂のパターンが見られます。片側だけのもの(片側性)、両側に裂があるもの(両側性)、口唇裂が鼻孔まであるもの(完全裂)やないもの(不完全裂)、口唇裂に口蓋裂を伴うもの(唇顎口蓋裂)など様々です。口唇裂の初回手術は、おもに唇や鼻のかたちを整えることと、哺乳や将来的には言語といった機能を獲得しやすくすることを目的としています。

さて、口唇裂の初めの手術時期はというと、多くの施設が生後2から6か月に行っています。その理由は、生後まもなく手術するよりも、ある程度体重を増やしてからの方が、くちびるの筋肉がしっかりすることで手術がしやすいということが一つあります。さらに、口唇裂はとても精密な手術です。赤ちゃんが泣き叫んでいる状態では精密な手術は難しいですから、全身麻酔で行います。全身麻酔もある程度体重を増やしてからの方が安全だと考えられています。裂によって生後すぐに手術を希望される親御さんがいらっしゃいますが、待つのはそのような理由からです。

当院では入院期間は約14日間です。手術をしてから1週間後に抜糸を行います。手術では細い糸のできるだけ細かく縫っています。赤ちゃんが泣き叫んでいる状態だと上手に抜糸できないばかりか、糸やハサミで手術した唇を傷つけてしまう可能性があります。ですから、当院では手術室で吸入麻酔を行いながら抜糸します。抜糸した2～3日後に手術の傷口や哺乳状況が問題ないと判断すれば退院となり、以後は外来に通院して頂いて経過を観ていきます。

手術方法もそうですが、手術前後に用いる装置(ホップ床やPNAM、鼻孔レティナなど)は施設によって異なります。そのため、治療を受ける施設の先生や、治療方針に興味のある先生、実際に治療を受けられた患者さんの家族の方に聞いてみるのが良いでしょう。手術が終わってからも傷口が目立たないようにしたり、手術で整えた形態が元に戻らないような工夫も大事ですから、相談しやすい環境にある施設や先生を選択することをお勧めします。



上の写真は左側不完全型口唇裂の男児です。左から生後3か月の術前、手術終了時、術後3か月目の写真です。手術によって裂は閉鎖され、傷口はほとんど目立たない状態です。傷口の治り方には個人差があり、手術したほうが傷口が目立たなくなると判断した場合、口唇修正術を行うことがあります。時期としては就学期前が多いようです。

ベトナムニンビンでの体験を通じて

九州大学歯学部5年 馬場 菜安奈

今回私は初めてニンビンでの医療活動に参加させて頂きましたが、ニンビンでの11日間は私にとって考え方が大きく変わった貴重な体験となりました。

ベトナムという国を見て

ベトナムが高度経済成長中であることは有名ですが、実際ベトナムで周りを見渡すと至る所で建設現場が見られ、思っていた以上に急速な発展を遂げつつあることに驚きました。その中で、例えばロッテデパートやサムスンなどといった多くの韓国系の資本が至る所にありました。その一方、(一部分しか見ていないため断定はできませんが見た限りでは)日本のベトナムでの存在感は韓国のそれよりも少し小さく見えました。

ベトナムの方はとても親切だったので、多少の不便もありましたが、ほとんど気にならないぐらい楽しく充実した時を過ごすことが出来ました。ある晩寒かったので布団をもう一枚くれないかとフロントに頼んだのですが、予備の布団が無いと断られました。しかしその日の夜中にフロントの人が多分ホテル中を捜しまわってくれたのか、少し古い布団をわざわざ部屋まで持ってきてくれたのです。その他にも催し物に正装を持っていなかったので手術着のまま参加することを現地の看護師さんに伝えると、持っていたアオザイを着せてくれ化粧をし、華やかに着飾ってくれました。

病院での患者さん同士の様子を見ていても、患者さん同士で毛布が無い人に毛布を貸しあい、子供をあやしたり等お互いに助け合っていました。このようにベトナムの人達は人に親切にし、お互いに助け合う素晴らしい国民性を持っていて、これは私たち日本人が見習わなければならないことでもあると思います。

先生方の医療現場を間近で見させて頂いて

毎日朝から夕方まで、先生方の医療現場を見させて頂きましたが、最初患者の麻酔導入時に使用されている薬、管の使用目的や、目の前で行われていることの意味が分からず、もっとしっかり勉強しておけばよかったと非常に後悔しました。それからは現場で分からないことを先生方に質問してオペを見学するというのを繰り返していると、普段の勉強では教科書を何度読んでもわからなかったことがうそのように容易に理解し、イメージをつかむことが出来ました。今回のメンバーの一人であった金先生に「10回教科書を読むよりも、1回現場を見る方が価値がある」と言われましたが本当にその通りでした。実際の医療現場を長い間間近で見られたことで、大学で勉強してきた知識の大切さを痛感しましたし、安全に医療行為を行えるよう学校でしっかりと知識を身につけることが私たち医学生将来出会う患者さんに対する責任であるということ学びました。

医療活動の課題

術後患者の様子を見に行ったら、ストレスが原因で腹部に不調を訴える患者さんが何人かいました。患部から異臭のする方、高熱が続いている方もいました。本当はそのような患者さん達の管理も必要なのですが、毎日多くの手術をしなければならず、全員が忙しい中では一人一人の術後管理まで行うことは困難な状況でした。事実あまりに多くの患者さんが来られた為に何人かの患者さんを断らなければならぬぐらい忙しい状況でした。人員、お金、時間、体力等様々な面で限りがあるなかで、より多くの患者さんにより質の高い医療を提供することの難しさを考えさせられました。

最後に

患者さんのお母さんでとても明るい方がいたのですが、息子さんをオペ室に導入し終えた途端急に泣き出したのです。そして「自分は本当に大変な時を過ごしてきた。子供たちに笑顔を与えるこの活動をやめないで続けてほしい。」と通訳を通して言われました。その時のそのお母さんの姿を忘れることができません。この時初めて先生方の行われている活動の重さを感じたように思えます。この活動にどれだけの人が救われ、そして切望しているのかと思います。

人員、お金、時間が限られている中でより多くの患者さんに質の高い医療を提供するため、先生方は毎日朝から晩までオペで忙しいにもかかわらず、さらにオペのスケジュール管理やその他多くの仕事を兼任されていました。体力的にも精神的にもきつい状況であられたと思います。活動の終わりに南先生が「年々資金が減っていているけれど、なんとかいろいろな方法でお金を集め、自分でお金を出してでもこの活動を続けていきたい。」と仰っていました。そのような先生方と11日間一緒に過ごさせていただいて、医療従事者のプロフェッショナルリズムの一場面を見ることが出来たのではないかと思います。まだはっきりとどの分野に就きたいかは決まっていますが、どの道に進むとしても、先生方のような精神をもった医療従事者になりたいです。今度は自分でお金を貯めて数年後にチャンスがあれば、また参加させていただきたいと考えています。

北海道大学口唇口蓋裂無償手術チーム

北海道大学病院 高次口腔医療センター 顎口腔機能治療部門
三古谷 忠

平成10年、北海道大学歯学部附属病院(現 北海道大学病院歯科診療センター)において口唇口蓋裂に対するチームアプローチ治療の体制作り着手して間もない頃のことであった。特定非営利活動法人日本口唇口蓋裂協会の事務局理事であった夏目長門先生から途上国の口唇口蓋裂患者の無償医療援助活動への参加を打診する問い合わせがあった。これまでボランティア活動に積極的に関わってきたという経緯があった訳ではなく、自らが勤務する病院で診療・教育に忙殺される毎日を過ごしてきた。正直なところ崇高な奉仕精神というものを持ち合わせるでもなく、途上国という未知の世界を体感してみたいという稚拙な好奇心が沸き上がったと言うほうが当を得ていると思われる。このような不遜な動機から無償医療活動への参加が始まった訳である。

平成11年2月、当時、最貧国のひとつとされていたバングラデシュ人民共和国への第3回派遣隊として宮崎大学、九州大学との合同チームに井上農夫男教授とともに参加させていただくことになった。そこはまさに未知との遭遇そのもので、何不自由のない暮らしのできる社会しか知らない我が身にとってただただショックであった。バングラデシュ派遣隊は医療支援事業としての可能性を調べる探索的性格を帯びた診療隊であった。同国唯一の国立大学であるダッカ大学の附属病院を拠点として、日本へ留学された諸先生方が中心となり種々仲介の労をとっていただき診療準備を整え、新聞等への事前広告で治療希望者を募り無償手術を行った。当時は国家体制として不安定要素が内在し、しかも経済的理由で医療の恩恵に与れない人々を対象とするため、行政の協力を期待することはなかなか難しく、ダッカ大学の好意、特に日本留学をされた先生方の並々ならぬ熱意と献身のおかげで業務を全うできたといっても過言ではなかった。

半ば不遜な動機からこのような事業を体験し遅ればせながら無償医療援助活動について考えさせられることになった。ほんの一部の地域で短期間の見聞でしかなかったが、そこには歴然とした貧困がそこかしこにあった。紛争や戦争こそなかったが、貧しい人々は自立して健康で文化的な生活を享受できているようには見えなかった。口唇裂・口蓋裂は体表部の目に見える先天性形態異常の中では最も高頻度に発生する疾患であるが、多くの場合、生命予後を左右する疾患ではない。しかし、適切な手術が受けられなければ唇裂により人間の尊厳が失墜させられ、口蓋裂により音声言語コミュニケーションが損なわれたままの人生を強いられてしまう。現地では日本では見たこともない未手術成人症例がたくさん訪れてきた。その方々の人生がいかなるものか辛い現実が目の前にあった。

この経験を通して口唇口蓋裂治療に関わる者として、身の程の範囲で支援事業へ協力させていただこうと思いが固まった次第である。いずれ我々がその一員としていずれかの国で支援の一端を担うには、支援の実際の在り方を学ばねばならなかった。今でこそ様々な国々で国内外の多くの大学や施設が参加して支援活動を展開している日本口唇口蓋裂協会であるが、その発端となり拠点ともなっているベトナム ベンチュエ省 グエンディンチュー病院での活動が新米チームのインキュベーションプログラムをも兼ねている。Guidelines for medical humanitarian aidによると、医療援助における無料診療の基本姿勢として、現地の医療法を遵守し援助目的を達成するため現地関係者と覚書を締結すること、何らかの利益や宗教、政治目的ではなくcharitable spirit(無償の精神)で行われること、現地の法・慣習を周知すること、術者は治療と教育を行うこと、現地医療者へ技術移転を行うこと、患者の術後回復に責任をもち患者の自立を支援すること、チーム員の健康と安全を維持すること、医療事故や災害のための保険を完備すること、とある。

翌平成12年からベトナム ベンチュエ省に場所を移しての活動に参加していくこととなった。初回は私1名だけの参加であったが、2回目からは戸塚靖則教授や教職員、看護師を加えた手術チームとして従事することになり、以後、大学院生の志願者も加えた構成員で平成22年まで7回にわたり援助活動に参加してきた。この間、活動資金の一助として、北海道大学歯学部附属病院(当時)内での賛同を得て、当院の患者さんから除去され廃物として蓄積された歯科貴金属の金、パラジウム、白金を精製・換金して口唇口蓋裂協会へ寄付させていただくことができた。また、当初から共に参加してきた菅野香看護師の熱意により当院看護部の方々がスマイルプロジェクト*へ加入し共に支援していただいたことは心強い限りであった。

北大チームとしてバングラデシュ支援事業へのシフトが計画されたが、先方の国内事情の混乱や財政面での緊縮などが重なり延期せざるを得なくなってしまったことは残念であるが今後に期待して準備をすすめたい。

*スマイルプロジェクト：患者さん1名分の治療費を個人・団体から寄付していただく制度。

※本記事はデンタルタイムス21に掲載されたものを、歯科時報新報社様の許可を得て掲載しています。

モンゴル国大統領後援事業 国際口唇口蓋裂ワークショップ

ICPF Workshop Cleft 2014 in Mongolia

開催月日：2014年9月9日(火)～12日(金)

募集演題分野：口唇口蓋裂ならび口腔疾患の口演ならびポスターを広く募集しております。

演題締め切り間近(2014年7月1日)

1. Advances in diagnosis and treatment of Cleft Lip and Palate
2. Oral and Maxillofacial Surgery (OMS), Reconstructive Surgery, Dental implant
3. Multidisciplinary care
(prosthodontics, orthodontics, speech therapy, periodontology, pediatric dentistry, preventive dentistry, etc…)
4. Establishing international network for speech therapy
5. Telepractice & Telemedicine
6. Stopping abortion fetus with cleft lip and palate

モンゴル国政府の全面的なサポートを受け、口唇口蓋裂治療のワークショップをモンゴル国ウランバートルで開催します。

開催場所：モンゴル国ウランバートル Conference hall at the Palace of Independence、ウランバートルホテル
モンゴル国は、相撲界では多くの力士が日本で活躍していることから、我々にとっても親しみのある、近くて遠い国です。希望者には大草原でのゲル体験、一般の観光では入ることが難しい政府迎賓館でのパーティーも予定しております。(別料金)。ふるってご参加ください。

プログラム概要：9月9日(火) 午前 開会式(独立記念館)
午後 keynote講演(ウランバートルホテル)
ガラディナー

9月10日(水)・11日(木) 一般公演・ポスター発表

9月11日(木) 午前で終了

9月12日(金) 郊外での交流会(別料金)

参加登録割引期間終了：2014年7月15日(火)

WEB：<http://www.icpf2014mongolia.mn/>

詳細についてのお問い合わせは下記にて承っております。(日本語でも可能)

(国際口唇口蓋裂協会日本事務局 office@icpfweb.org)



参加費用	2014年7月15日まで	2014年7月16日～ 8月31日まで	2014年9月1日～ on-site
医師・歯科医師	36,000円	40,000円	48,000円
コメディカル・研修医・ 大学院生	20,000円	24,000円	32,000円
同伴者		8,000円	

★宿泊の手配については、上記URLからもしくはJTB中部が仲介をしておりますので、ご希望の方は国際口唇口蓋裂学会事務局までお問い合わせください。

本国際会議に先立ち、9/7-8の日程で、日本モンゴル医学歯学交流ワークショップも日本医学歯学情報機構と共催で開催いたします。あわせてご参加をご検討くださいますようお願い申し上げます。

新規法人会員のご紹介 ご入会頂きありがとうございました

◆法人正会員

電源開発株式会社

ライオン株式会社

◆賛助法人会員

エフ・ヴィセントラル株式会社

中部国際空港株式会社

キリンビバレッジ株式会社

平成25年度 安部浩平初代日本口唇口蓋裂協会理事長記念寄附講座 — 口腔先天異常遺伝学・言語学講座 — 講演会のご報告

第4回

平成26年2月13日(木)、愛知学院大学歯学部において、講師に東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授の井関祥子先生をお招きし、「哺乳類頭蓋顎顔面の発生と先天異常」というテーマで講演をして頂きました。

今回の講演では、先天異常の発生要因の重要性などをお示しになられ、参加者から、口唇口蓋裂の発生機序について興味をもつことができたなど感想が寄せられました。限られた時間のなかでの講演でありながら中身の濃い内容の教授を賜りました。大勢参加された歯科医師・将来の歯科医師などへの刺激になり、さらに今後の関心を高める機会にもなりました。



井関祥子教授

第5回

平成26年3月1日(土)、愛知学院大学歯学部において、講師に昭和大学形成外科言語聴覚士の木村智江先生をお招きし、「唇顎口蓋裂40例のスピーチの長期経過」というテーマで講演をして頂きました。

今回の講演では、昭和大学形成外科にて一貫治療を受けた唇顎口蓋裂の方の、治療終了までのスピーチの長期経過についてお話くださいました。内容は、幼少期に鼻咽腔閉鎖機能が良好である方でも、成長に伴い、悪化する場合が少なからずともあるために、継続的な鼻咽腔閉鎖機能管理は言語聴覚士によって行われなくてはならない、というものでした。御存知の通り、鼻咽腔閉鎖機能は、スピーチの明瞭度に大きな影響を与える機能です。定期的に、また継続的に言語聴覚士による鼻咽腔閉鎖機能の管理を受けている場合は、悪化の早期発見と同時に適切な時期に適切な介入をすることが可能です。昨年度頃より、鼻咽腔閉鎖機能の長期にわたる経過フォローの必要性について、活発に説かれるようになってきました。もちろん、幼少期から成人に至るまで良好な鼻咽腔閉鎖機能を有する方が大半です。しかし、解剖学的な変化は成長に伴いみられますので、今回のお話より、定期的かつ継続的に言語聴覚士を受診することが望ましい、ということを感じました。



木村智江先生

【会報担当：吉田】